

「腹部血管造影・IVR における バルーンカテーテル・テクニック」

大阪大学講師・中央放射線部 中村仁信
鳥取大学助教授・放射線部 澤田 敏 著
防衛医科大学校講師・放射線科 古井 滋

経皮血管カテーテル法は診断面では血管造影検査に、また治療面は interventional radiology (IVR), 特に interventional angiography において大きな役割を演じている。カテーテルも高度に発達してあらゆる目的に対応した種類が作られ広く普及しているが、中でもバルーンカテーテルの出現は血流の遮断ならびに血管狭窄部の拡張を可能にした点で多くの可能性をもたらした。診断面では圧測定にはじまり、造影効果の向上に果たした役割は大きいし、治療面では一時的止血、血流遮断下の動注、効果的塞栓術への応用などのほか、IVR における新しい展開ともいえる血管形成術 PTA に対する役割など広い範囲に役立っていることはいふまでもない。

今回バルーンカテーテルに的を絞って、その構築、種類、特徴、使用方法などに関する詳細な説明を盛り込

んだテキストブックが新進気鋭の interventional radiologist である大阪大学の中村仁信講師、鳥取大学澤田敏助教授、防衛医科大学校古井滋講師の3先生によって出版された。本書の特徴はまずカテーテルの材質にはじまり、各種バルーンカテーテルの写真ならびにシェーマを用いたその構造、目的血管への進め方など実際に行き届いた説明が加えられ、バルーンカテーテル挿入に併用するシースイントルデューサーやガイドワイヤーなどの使い方にいたるまで詳細に記載されている。IVR にこれまで携わってきた専門家さえ、バルーンカテーテルにはこのような多くの種類があったのかとその認識を新たにするはずである。またその使用法、挿入テクニックにいたるまで驚く点が多々あるに違いない。

IVR を含めた血管カテーテル法の応用範囲は広がるばかりである

が、実際バルーンカテーテルを使う段になると、術者がこれまでに知っている種類のものに限られてくるものである。本書においては最終の25ページを割いて現在市販されているすべてのバルーンカテーテルの製品一覧を示し、製造元、販売元から、カテーテルサイズ、材質を含めた品番、これにフィットするガイドワイヤーにいたるまですべて列挙されている。これは IVR に携わるものとしてはまことに貴重な資料ともなるべきものであろう。手技のイラストレーションや症例の写真についても見事なレイアウトがなされており、全体の流れを容易に理解することができると思われる。

著者らによる序文にも述べられているとおり、バルーンカテーテルは interventional radiology の象徴ともいえるものであるが、このバルーンカテーテルのテクニックを主にしたテキストはこれまでに類を見ないのである。この領域に携わる医師はもちろんのことチームにおける技師や看護婦にもぜひ一読を薦めたい。

(慶應義塾大学教授・放射線診断科)
平松 京一

●B5 156頁 図27 写真96
1991年 定価7,416円(税込)
〒300円

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)